

天声人語

アイネス・バ
スカビルさんは
日本での生活が
長い。日本語で
話していると、

米国人女性であ

ることを忘れる。本人も意識していないだろう。「人間は人間。どこにでも、いい人もいるし、悪い人もいます」▼初めて日本に来たのは二十八年前のことだ。その後、八年ほど米国に帰り、また日本に戻った。今は三人の子どもも独立した。東京では数年間、日本人と外国人の女性たちによる難民支援の募金活動に参加していたが、しだいに「現場のあるところで働きたい」と思う▼募った金を、日本国際ボランティアセンター（JVC）に寄付していたことから、JVCで働くことになった。JVCは、インドシナ難民の救援にかけつけた日本人たちが、一九八〇年に、バンコクでつくった非政府組織（NGO）である▼東南アジア各国、中東やエチオピア、日本国内で援助・調査活動などを行っている。ほかの人々と同様、アイネスさんも無償の仕事だ。八八年まで、三年の間に四回、アフリカのソマリアに行った。JVCのキャンプでの調査や文書作り、人々の農業の手伝いなど……▼「砂漠だけで、水も無い、天然資源も無い」国。コップ一杯の水を幼児がどんなにうれしそうに飲み、母親が喜ぶか。現場体験は活力源になった。米国に帰って「第三世界支援事務所」を作りたい。その前に今は別のことで頭がいっぱいだ▼JVCの海外での活動費をつくるため、ヘンデル作曲「メサイア」の演奏会を計画した。今年で四回目。実行委員長として、佐久間典子さんなど仲間と準備を重ねる。個人や企業に説明して、協力を得た。指揮者も独唱者も無償で参加してくれる。心配は売れ行きだ▼東京の昭和女子大人見記念講堂で来月五日。入場券については、JVC事務局が月曜から金曜、十時から七時まで、申し込みに応じるといふ。電話〇三―三八三四―二三八八。